

あつみ ようちえん 通信



2020

vol. 36

企画・編集: (株)ASO



「どうかな?」「ああかな?」と考えたりも
みんなで試してみようよ

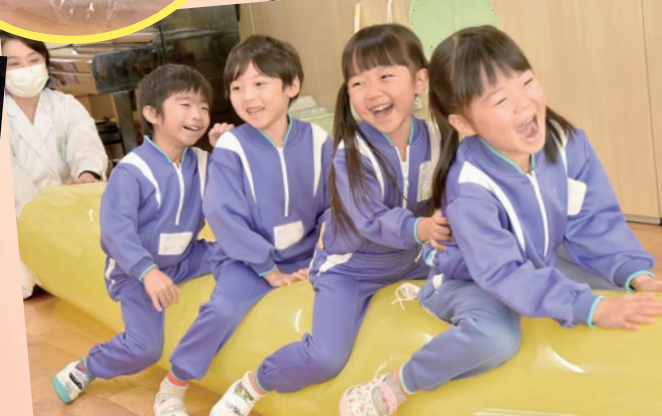
実験

予想

ワクワク

年長
さん

科学あそび



11月30日に取材しました。

エーッ!!
空気をつかまえる!?

“空気”には ふしぎがいっぱい!? 考えるっておもしろい!!

科学遊びのこの日のテーマは「空気」です。空気はとても身近だけれど、目には見えないし、形がないですね。子どもたちはどうやって「空気」を感じ、その不思議さを味わうのでしょうか。取材する私も興味津々。講師の大鷲先生は、子どものユニークな発想や考えをじょうずに引き出していました。

レポーター あきもと さちこ

科学あそび



「わー、すわれる!」



「うん、やってみー!」
実験っておもしろい

アイデアが出たところで、次は実際に試してみることに。空気を集めて閉じ込める実験です。黄色の細長いビニール袋に、一人10回ずつうちわで扇ぎ空気を送ると、スゴイ! 大きなバルーンができあがりました。閉じ込めた空気は、重いかな? 軽いかな? さわるとどんな感じかな? 上に座るとどうなるかな? ペちゃんこになるかな? 予想を立てて実験で確かめてみました。

すごいね! よく考えたね!

「空気をつかまえるにはどうしたらいいかな?」と問いかけると、ハーイ!ハーイ!子どもたちの元気な手が上がります。「口でフーッする」「袋をゆらゆらする」「うちわであおぐ」…、お友だちのアイデアに刺激されて考えがどんどん広がっていきます。「そうだね」「すごい、よく考えたね」と先生は考えたことを褒め、一人ひとりに丁寧に応えていました。「考えること」がなんだか楽しそうでしたよ。

「ハーイ!ハーイ!」



わー、すごい!
ふくらんできたー



こうやって袋をゆらして、
空気をつかまえる。

をしました



細長い袋にうちわで空気を集めて
バルーンをふくらませる



空気の集め方 袋をゆらゆらして集める。

科学あそびで
取り上げるテーマは…

空気・水・磁石・鏡など、生活の身近なところから「なぜ?」「どうして?」を広げています。意外な発見や気づきがあります。



「ああ、おもしろかった！」で終わるのではなく



最後は、「おもしろかったところ」「ふしぎだったこと」を前に出て発表し、簡単なレポートを書きます。

「ふりかえり」をすることで、今日やったことを整理し、自分の中にとり入れることができるといいます。



スライダーを作って、すべらせてみよう。上手くすべるかな？

教えて！先生

科学で生きる力・考える力を育みたい！



大鷲直美先生

■「どうしたらいい？」と子どもに問いかけながら進めていましたね。

科学あそびには「考える力を育む」ということが基礎にあります。自分なりの意見や考えをどんどん出してほしいんです。予想なので間違ってもいい、「考える」ことが大事です。

■家でも子どもはよく質問してきます。どう答えたらいいかアドバイスがあれば。

質問されると、つい答えを言いがちですが、逆に「どう思う？」と聞いてみではどうでしょうか。考える時間をあげると、結構おもしろい答えが返ってきますよ。

■「ふりかえり」で発表やレポートがあるなんて、本格的ですね。

これがないと「あ～楽しかった！」で終わってしまうんですね。レポートは持ち帰ってお家の人に伝えることもできます。「こんなことしたよ」と会話も弾むのではないのでしょうか。



スライダーが楽しかった！

空気を閉じ込めるところ！

「こんなことが楽しかったか、不思議だったか」を発表します。

つかまえた空気でゲームをしよう



「閉じ込めた空気って「すごい！」、を実感した子どもたちが最後に楽しんだのは空気で遊ぶゲームです。バルーン送りや空気を集めて作ったスライダーを滑らせる競争も大盛り上がりでした。「子どもたちは科学あそびが大好きで、以前やった空気砲や磁石のこともよく覚えています」「ふだんの遊びや会話にも、空気や鏡のことが出てきますよ」と担任の先生。身近なふしぎに気づく良いきっかけになっているようですね。



かーい！
プニプニする！



実験のまとめをしましょう。



こんな実験

取材を終えて

身近なことなのに、あらためて「どうして？」と聞かれると答えに窮することってありますね。科学あそびは、テレビの「チコちゃんに叱られる」(NHK)にどこか似ていて、いい意味で考えることがクセになりそう。正直勉強になりました！



空気を集めてスライダーを作る。
机や床にパタパタすると下から空気が入る。



閉じ込めた空気は重いものを支える力がある。